1. 評価結果概要表

ふぁみり～大宮

作成日　平成19年 9月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3470204359		
法人名	有限会社　誠友		
事業所名	グループホーム　ふぁみり～大宮		
所在地 (電話番号)	広島市西区大宮三丁目1番18号 (電　話) 082-509-0882		

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	平成19年10月12日

【情報提供票より】(19 年 9 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設／(単独)	新築／(改築)	
建物構造	木 造り		
	2 階建ての 1 階 ～ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000～84,000 円		その他の経費(月額)	円
敷　金	有(　円)		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円) 無		有りの場合 償却の有無	(有)／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(9 月 1 日現在)

利用者人数	6 名	男性	名	女性	6 名
要介護1	4	名	要介護2		名
要介護3	2	名	要介護4		名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 83 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三滝参道クリニック・長尾医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームでは、利用者の安心した生活を支えることを常日頃から全職員で目指しており、利用者本位と地域との関わりを支援の基本としている。ホームの建物は、民家の改装型であるがハード面の多少の不便さは職員でおぎない話し合いながら利用者の立場に立っての工夫をし、家庭的な雰囲気と設えが保たれている。利用者の方は、いつもの仲間や職員と一緒に暮らし、支え合っている。また、職員の支援によって自由で家庭的な生活を過ごしておられるため、安心感のある雰囲気が印象的なホームと感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、地域との関わりについては、更に努力し向上の話し合いが行われていたが、その後の取り組みとしては運営推進会議等を通じて交流に積極的に取り組まれ、また町内会長の理解・協力も得ながら接点を持つ努力が行われている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、評価の意義とねらいについてよく整理され運営者、管理者、職員で話し合いのうえ取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、事業所の取り組み内容や具体的な改善方法を話し合ったりしながら、地域への理解と支援を得るための双方向的な会議となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 常日頃から家族等から得られた意見等は、常に前向きに受け止め、質の向上につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者と職員は、普段の暮らしの中を通じて、近隣の人たちへの声かけや挨拶を交わしている。特に、地域のお祭りなどの行事には積極的に参加し、交流することに努めている。

2. 評価結果(詳細)

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、地域のなかでその人らしく生活することを支えるためのケアを具体的なイメージを持ってつくりあげられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、日々のサービス提供の場面において、理念が的確に反映されるように努力し取り組んでいる。	○	理念を分かり易く明示し、ミーティングや申し送り時、振り返りの時にも、必ず触れ、確認し合える取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り等の行事には利用者とともに積極的に参加しながら、利用者が地域の中で暮らし続けるための基盤作りを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は、評価に積極的に取り組みながら、サービスの質の確保に活かしていこうとする取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告とともに参加者からの質問、意見、要望などの発信を求め進めているため、双方向的な会議となっている。	○	更なる向上として、運営推進会議の参加者に評価結果、評価で明らかになった課題について会議で報告し、その後もモニター役になってもらい一体的に活かしていく相乗効果を期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者の窓口に対しては事務手続き等で面識があるが、これからは具体的に積極的に行政との関わり方を検討し、推進を図るようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、手紙では現状を詳しく報告をし、また家族等の来訪時には必ず声かけをし、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等は気軽に伝えられるような機会をつくりながら、形式的な伝達の仕方ではなく、個々の利用者の家族等の立場に立った説明を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職等が止むを得ない場合は、その時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶべきことは的確に推進し、また全職員に対しては研修や会議等に参加の機会を設けながら、また研修内容を報告する機会も設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流については、現在検討中であるが地域の包括支援センターを中心とした情報交換等を行って、サービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、利用者や家族等には事業所を見学してもらうことから始め、職員やサービスの場に徐々に馴染みながら利用に移っていけるように、本人の安心と納得を大切にして利用の支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常日頃から利用者とともに、喜怒哀楽をともにしながら支えあえる関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や言葉に表せない思いを、日々の行動や表情から汲み取り把握しながら支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画と照らし合わせて、現時点の利用者や家族の状況･ニーズ･サービス提供状況とずれが生じていないかその都度、検討見直しを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かしながら利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期通院の支援等を柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの一人ひとりの受診状況を把握し、本人･家族等が希望する医療機関･医師に常に受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとりながら、安心した終末期が迎えられるように、随時意志を確認しながら取り組んでいる。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、また目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮をしながら支援を行なっている。また、全ての職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持を尊重し、できるだけ個別性のある支援に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の流れは、利用者個々の力を活かしながら職員と共に行い、張り合いや自信、楽しみや喜びにつながるように努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	羞恥心･恐怖心･負担感への配慮を行いながら、支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の方の得意分野で、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持を伝えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化しないような外出支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常日頃から、職員は見守り、声かけなどの連携プレーを行いながら自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器や避難路の確保等の設備点検や、訓練を定期的に行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける臭いなど、五感や季節感を意識的に採り入いれながら、利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、馴染みの物を活かしてその人らしく過ごせる部屋となるように努めている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名　グループホーム　ふぁみり～大宮

評価年月日　19　年　9　月　25　日　　記入年月日　19　年　9　月　12　日

記入者　職　ホーム長　　氏名　大久保　元子

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ　理念の基づく運営				
1　理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして，事業所独自の理念をつくりあげている。	ホームの中での理念はあるが地域密着型サービスの理念はまだ作っていない。	○	理念をまとめた用紙を作成していないため早急に作りスタッフに配布したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は，理念を共有し，理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	一人ひとりのペースを大切に、と心がけている。	○	新しく入ったスタッフにもわかるよう、見える位置に掲示していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は，利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を，家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の行事にはなるべく参加している。	○	理念がわかりやすいよう玄関等に掲示していきたい。
2　地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は，隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり，気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常の挨拶は行っているが利用者の心理状態等もあり気軽に立ち寄るという事はない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として，自治会，老人会，行事等，地域活動に参加し，地元の人々と交流することに努めている。	町内の行事(祭など)はなるべく参加している。	○	地域活動(町内の掃除等)には今後、参加していきたい。 町内の回覧にホーム便りのようなものを入れてもらえるよう検討していきたい。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に，事業所や職員の状況や力に応じて，地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い，取り組んでいる。	民生委員の方より、地域の高齢者(独居等)の話は聞くが、取り組んではいない。	○	役立てることがあれば今後、取り組んでいきたい。
3　理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者，管理者，職員は，自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し，評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	できる限り取り組んでいる。	○	改善に向けてしっかりスタッフと話をしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	参加できる利用者・ご家族が少ないため、サービス向上につながる話し合いは少ない。	○	できる限り、ご家族にも参加していただき、サービス向上につなげたい。
9	○市町との連携 事業所は，市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり，市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町担当者の参加はまだない。	○	市町担当者の参加も願いサービスの質の向上に取り組んでいくようにしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会、「かけはし」の方と話し合い、支援している。	○	スタッフが学ぶ機会がないため、今後機会を作りたいと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	スタッフ１人１人心がけ防止に努めている。	○	高齢者虐待防止法、関連法についてきちんと学んでいないため、今後学ぶ機会(研修等)を作りたいと思う。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４　理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は，利用者や家族等の不安，疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前、入居時に説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらの運営に反映させている。	常に利用者と会話をし、何かある時は改善に向け話をしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態，金銭管理，職員の異動等について，家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、健康状態等を手紙にて報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	意見等があった際は早急に改善できるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	１日２回の申し送り時や日頃から気がついた時に話し合うようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	受診や行事の時など、スタッフを確保するようにしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は，利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように，異動や離職を必要最小限に抑える努力をし，代わる場合は，利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者様の前で、退職の話し等はしないよう配慮している。		
5　人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は，管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしてくことを進めている。	スタッフの確保ができずなかなか研修に参加できていない。	○	今後、できる限り調整し、研修に参加していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は，管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	交流はないが、地域包括支援センターのセンター長と、情報交換などしている。	○	交流できるよう状態を見ながら行っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は，管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	声をかけ合ったり、過密な勤務にならないよう配慮している。	○	スタッフ同士、コミュニケーションが取れるような機会を作っていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，各自が向上心を持って働けるように努めている。	得手、不得手を見極め、それによって勤務体制を組んでいる。	○	スタッフ同士、向上心を持って働けるよう、話し合っていきたい。
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること，不安なこと，求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり，受けとめる努力をしている。	相談内容等、記録し受けとめるよう心がけている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること，不安なこと，求めていること等をよく聴く機会をつくり，受け止める努力をしている。	相談時、しっかり話をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に，本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学時、相談時に話を聞き、グループホームに合っているか、話をしている。(本人も混じえて)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し，納得した上でサービスを利用するために，サービスをいきなり開始するのではなく，職員や他の利用者，場の雰囲気に除々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人様に必ず見学に来ていただき、納得の上、入居となるようにしている。		
2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場におかず，一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし，本人から学んだり，支えあう関係を築いている	スタッフは”介護者”というだけではなく時には、家族のような関係が築けるよう心がけている。	○	信頼関係が大事なのでコミュニケーションはしっかりとるよう心がけている。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場におかず，喜怒哀楽を共にし，一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に状態を報告している。	○	ご家族と行事を共にする事がないので、できる限りしていきたい。
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め，より良い関係が築いていけるように支援している。	事情があり、面会に来られない家族に手紙や、写真を送っている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	ご友人との面会、外出等		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるように努めている。	リビングが交流の場となっており自由に居宅と行き来している。	○	認知症のレベルの違いや、性格等見極め、様子を見ながらスタッフが間に入る。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても，継続的な関わりを必要とする利用者や家族には，関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入居(長期)で退居となった場合再入居できるよう配慮している。(希望があった場合)	○	今後、検討していきたい。
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1　一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	共同生活のため、全て希望通りという事は難しい時もあるが、なるべく意向に添えるよう努めている。	○	なるべく意向に添うよう努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、生活暦等、聞き取り記録し、把握できるよう努めている。	○	極端に生活リズムが崩れないよう配慮している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活記録で一日の状態を把握している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	ケアについて、その都度、スタッフ同士話し合ったり、面会時ご家族にも相談している。	○	ケアカンファレンスの場を作り意見交換できるようにしたい。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに，見直し以前に対応できない変化が生じた場合は，本人，家族，必要な関係者と話し合い，現状に即した新たな計画を作成している。	常に話しをしているため、変化が生じた場合は速やかに対応している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一人ひとりの生活記録があり、一日の状態がわかるようにしている。		
3　多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況，その時々の要望に応じて，事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出など要望があれば支援している。		
4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて，民生委員やボランティア，警察，消防，文化・教育機関等と協力しながら支援している。			

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて，地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い，他のサービスを利用するための支援をしている。		○	グループホームでの生活が困難になった場合、活用し支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて，権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について，地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターのセンター長様に推進会議に参加していただき情報交換等は行っている。	○	今後、必要に応じて行っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の希望があれば優先している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら，職員が相談したり，利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	対応に困った時など相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら，日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホーム協力医に受診の際相談している。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは，そうした場合に備えて連携している。	入院の際は、情報交換をしっかり行いできる限り支援するよう努めている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 　重度化した場合や終末期のあり方について，できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	話しはするが、具体的ではない。	○	早い段階で、全員で話し合いがもてるようにしていきたい。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 　重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために，事業所の「できること・できないこと」を見極め，かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは，今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	早めに見極め、かかりつけ医と相談している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 　本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際，家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い，住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	住み替えをされた方がいない。	○	住み替えがあれば情報交換していきたい。

Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1　その人らしい暮らしの支援

（1）一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 　一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応，記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉かけや、対応には十分留意し、個人情報の取り扱いにも気をつけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 　本人が思いや希望を表せるように働きかけたり，わかる力に合わせた説明を行い，自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人が納得するまでしっかり話をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 　職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	一人ひとりのペースでゆっくり過ごしていただけるよう努めている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し，理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自分で着たい服を決め、着ていただく。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	ホワイトボードにメニューを書いている。 テーブル拭き、下膳を一緒にしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒，飲み物，おやつ，たばこ等，好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	疾病等で、必ずしも望むものは楽しめないが、特別な日(誕生日等)は好みの物を用意している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間を決め、誘導、促しで失敗を減らしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに，一人ひとりの希望やタイミングに合わせて，入浴を楽しめるように支援している。	希望やタイミングに合わせていないがゆっくり入れるよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	電気や、空調に気をつけている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割，楽しみごと，気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，楽しみごと，気晴らしの支援をしている。	掃除、洗濯等、一緒に行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりが所持はしていないが必要な時に使えるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援している。	車が必要な場合は、日を改める時もある。	○	希望があれば添えるよう努めたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに，個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	希望はあっても、体力的な問題で断念することあり。(県外など)	○	可能な限り支援していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はいつでも利用可能。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族，知人，友人等，本人の馴染みの人たちが，いつでも気軽に訪問でき，居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に面会している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる。		身体的拘束は行っていないが正しく理解できるようまとめた用紙を作成する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が，居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており，鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵はなく、日中、玄関、窓は全て開放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら，昼夜通して利用者の所在や様子を把握し，安全に配慮している。	日中は、利用者の所在を常に確認している。 夜間は巡回している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく，一人ひとりの状態に応じて,危険を防ぐ取り組みをしている。	家族と相談しながら行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒，窒息,誤薬,行方不明,火災等を防ぐための知識を学び,一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	センサーを使用したり、確認を心がけ防止に努めている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え,全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	応急手当のマニュアルを掲示している。	○	訓練を行っていきたい。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
71	○災害対対策 火災や地震,水害等の災害時に,昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け,日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	訓練誘導などスタッフ間で話し方法を身につけている。	○	地域の人の協力を得られるよう、働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し,抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	家族にはその都度説明し、スタッフ間で常に対応策を話し合っている。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め,気付いた際には速やかに情報を共有し，対応に結び付けている。	毎朝、もしくは異変の時、バイタルチェックを行っている。かかりつけ医にすぐ報告できるようにしている。	○	的確に判断できるよう日頃から利用者の状態を全員が把握していくよう努めたい。
74	○服薬支援 職員は，一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療ノートにて、一人ひとりの薬を把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は，便秘の原因や及ぼす影響を理解し，予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェック表にて管理し、腹部マッサージや、医師に相談し緩下剤も併用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを実施している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	１人ひとりの量は気をつけている。水分補給の時間を多く設けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。（インフルエンザ，疥癬，肝炎，ＭＲＳＡ，ノロウィルス等）	毎年、インフルエンザの予防接種を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛星管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔に保つよう心がけ、熱湯処理や手袋着用を心がけている。		
２　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	夜間以外、門扉は開けている。天気の良い日は玄関も開けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関に季節の花を飾ったり、リビング壁に季節の歌を書いた紙を掲示している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファー、テーブル席に自由に座れるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は相談しながら工夫しているが、持参品はご家族にまかせている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め，温度調節は，外気温と大きな差がないよう配慮し，利用者の状況に応じてこまめに行っている。	１日１回は窓をあけ換気を行い、エアコン使用時はこまめに温度の確認を行っている。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	玄関、階段に手すりをつけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして，混乱や失敗を防ぎ，自立して暮らせるように工夫している。	トイレなど、あえて紙を貼らず、口頭でトイレまでの場所を伝えている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり，活動できるように活かしている。	ベランダに段差があるため、利用の際は、スタッフも一緒に。	○	庭の手入れや、花植等行えるようしていきたい。

Ⅴ　サービスの成果に関する項目

88	職員は，利用者の思いや願い，暮らし方の意向を掴んでいる。	①　ほぼ全ての利用者の ②　利用者の２/３くらいの ③　利用者の１/３くらいの ④　ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が，一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①　毎日ある ②　数日に１回程度ある ③　たまにある ④　ほとんどない
90	利用者は，一人ひとりのペースで暮らしている。	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２/３くらいが ③　利用者の１/３くらいが ④　ほとんど掴んでいない
91	利用者は，職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２/３くらいが ③　利用者の１/３くらいが ④　ほとんど掴んでいない
92	利用者は，戸外の行きたいところへ出かけている。	①　ほぼ全ての利用者の ②　利用者の２/３くらいが ③　利用者の１/３くらいが ④　ほとんど掴んでいない
93	利用者は，健康管理や医療面，安全面で不安なく過ごせている。	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２/３くらいが ③　利用者の１/３くらいが ④　ほとんど掴んでいない
94	利用者は，その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により，安心して暮らせている。	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２/３くらいが ③　利用者の１/３くらいが ④　ほとんど掴んでいない

95	職員は，家族が困っていること，不安なこと，求めていることをよく聴いており，信頼関係ができている。	① ほぼ全ての家族と ② 家族の２/３くらいと ③ 家族の１/３くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に１回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり，事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は，活き活きと働けている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の２/３くらいが ③ 職員の１/３くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の２/３くらいが ③ 利用者の１/３くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の２/３くらいの ③ 家族等の１/３くらいの ④ ほとんどできていない

※ は，外部評価との共通項目